

[農業経営部門]

1. 岡山米に対する米穀卸のニーズ

[要約]

米穀卸は岡山米にロットを求めており、小売等へ販売する単一銘柄用としては「あきたこまち、コシヒカリ」、ブレンド用としては「ヒノヒカリ、コシヒカリ」、外食等業者向けの業務用としては「コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ」を望んでいる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

全国的な米の消費の低迷、生産過剰、米価の低下傾向の中、販売戦略の検討とその展開は、県の農政において重要な課題である。そこで、小売りや外食等に米を流通させている米穀卸における岡山米の消費ニーズを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 県内の米穀卸が仕入れたい岡山米の評価の基準では、ロットの要望が高く、特に「アケボノ」は高い。最も仕入れたい品種は「ヒノヒカリ」であるが、各品種に対する要望の差は小さい。品種別には、「ヒノヒカリ、アケボノ、コシヒカリ、朝日」はロット、「きぬむすめ」は価格、「あきたこまち」は品質が重視されている（図1）。
2. 岡山米は使われ方において主に単一銘柄用として評価されるグループと主に業務用として評価されるグループに二分される。前者では「あきたこまち」は新潟産「コシヒカリ」と最も近い使われ方であり、「コシヒカリ」もこれらに近い。後者には「アケボノ、ヒノヒカリ」が分類され「朝日」もこれらに類する（図2、表1）。
3. 用途別の評価では、岡山米は小売等が販売する主食単一銘柄用で「あきたこまち、コシヒカリ」が、業務用では「コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ」が、玄米販売用では「あきたこまち」がそれぞれ新潟産「コシヒカリ」と同程度に評価されている。また、主食ブレンド用では、「ヒノヒカリ、コシヒカリ」が評価されている。一方、加工用で評価される岡山米はない（表1）。
4. 米穀卸の岡山米に対する意見・要望では「品種の絞り込み」と「知名度の低さ」が最も多く、次いで「朝日の販売戦略」、「米に対する継続した政策」と「食育による米の消費促進」、「販売ロットの確保」などがあった（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 行政や販売担当者が県産米の消費拡大を進める上での基礎情報になる。

[具体的データ]

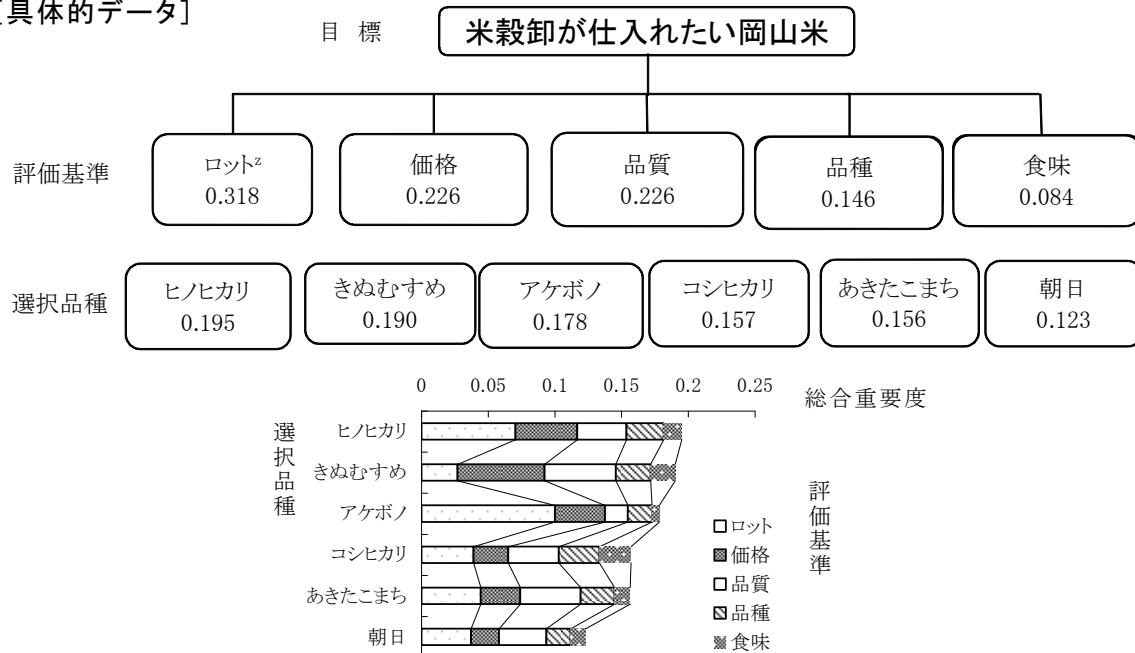


図1 県内の米穀卸が仕入れたい岡山米の評価基準と選択品種

注) 2012年に米穀卸5社(県内5)へアンケートを実施。AHP (Analytic Hierarchy Process: 階層的意思決定法)を用い、評価基準5項目と評価基準別に選択品種を1対1で比較し総合重要度(図中数値)を算出。図中数値が大きいかほど高い評価を示す。評価基準は米穀卸、外食等への調査により設定。整合度指数(以下C. I.) < 0.15の回答を集計。
²ここでのロットとは米の生産、取引、輸送、保管する際のもまとまった単位

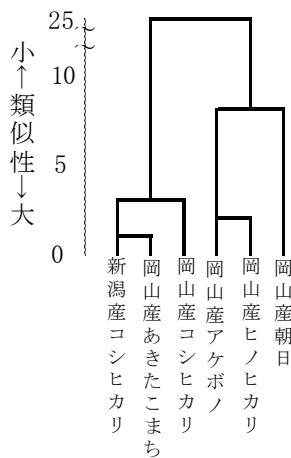


図2 用途における岡山米の類似性

注) 表1を基に、word法により分類

表1 岡山米の用途別の評価

用途	品種 岡山産あきたこまち	岡山産 コシヒカリ	岡山産 ヒノヒカリ	岡山産 朝日	岡山産 アケボノ	参考:新潟産 コシヒカリ
主食単一銘柄用	4.6	4.4	2.9	3.4	2.8	4.6
主食ブレンド用	3.0	3.7	3.8	2.6	3.0	3.0
業務用	3.8	4.0	3.7	3.3	3.4	3.7
加工用	3.1	2.8	3.0	2.9	2.9	2.7
玄米販売用	4.1	3.6	3.7	3.0	2.8	4.0

注) 2010年に米穀卸9社(県内7、県外2)へアンケートを実施。品種別に米の用途(主食単一銘柄用、主食ブレンド用、業務用、加工用、玄米販売用)を5段階評価で調査。数値が大きいかほど高い評価を示す。新潟産コシヒカリは参考、図2、表2も同様

表2 岡山米に対する意見・要望

項目	人数	項目	人数
岡山米の品種の絞り込み	7	米市場の中心はコシヒカリ	4
岡山米の知名度の低さ	7	販売ロットの確保	4
朝日の販売戦略	6	岡山米の売渡価格の高さ	4
米に対する継続した政策	5	高温耐性品種への期待	4
食育による米の消費促進	5		

[その他]

研究課題名：消費ニーズによる岡山米の生産・販売方向

予算区分：県単

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：河田員宏